



# 北海道 教区時報

第223号

発行所  
札幌市中央区北3条西19丁目  
(郵便番号 060-0003)  
北海道教区教務所  
電話 011-611-9623  
編集 北海道教区教務所  
発行人 寺井 紹道



## ● 巻頭言 ● 「尊いみ教えに遇えて」

顧みますと平成十六年から仏教婦人会総連盟の評議員として五年間上洛させていただきました。また、北海道教区では仏教婦人会連盟の会長として、会員の皆様の支えにより大過なく全うすることが出来、有難く感謝にたえません。この間、親鸞聖人のみ教えを勉強させていただき、「親鸞聖人七百五十回大遠忌」の尊いご縁を頂戴することもできました。

昨年「東日本大震災」「原発事故」など日本中が東北に視線を向けております。私の従兄弟の娘が陸前高田にて水泳部顧問に携わっていた関係で、急を知らせに行く途中で津波に遭い未だに行方不明となっております。三月十八日に一周忌法要に参列し哀悼の意を表してまいりました。

阿弥陀様。お念仏のみ教えをよりどころとする。いつでもどこでも見守ってください。このみ教えを次の世代に伝える。仏教婦人ありのままの姿を伝えていく事が私どもの使命と思えます。これからも万物に感謝しお念仏申しまいると思います。 合掌

教区仏教婦人会連盟会長

高橋 總我子

## キッズサンガサポーター協議会開催

去る、二月一七日(金)に北海道教区キッズサンガサポーター協議会が開催されました。

サポーター協議会では、先だつて行われた本山協議会での「キッズサンガは宗派の長期振興計画【二〇一七(平成二九)年三月三十一日迄】の一端を担っているものであり、大遠忌法要年度である。」「という報告があり参加者一同が確認しました。その後キッズサンガ推奨DVDを鑑賞し、教区でのアンケート結果を見ながら各組実施率が増加していることを確認。今後は一〇〇%実施に向けて、現状の課題と成果を分科会で話し合いました。分科会では「ノウハウがなかったが、組のサポーター



ターが手伝ってくれた」という意見や、「声かけをするようになつて、地域の子どもたちと接点をもてるようになった」など、多くの意見を聞くことが出来ました。最後に全体会を行い、「お寺の本来の姿である、『みんなの居場所』

になり、子どもを集めるイベントであり、子どもを集めるイベントキッズサンガではなく、普段の声かけなどから、お寺に来てくれる子どもたちのために、門信徒と共に阿弥陀様とのお縁づくりをしていこう」とまとめました。

尚、各寺院の皆様にはアンケートへのご協力いただきましたこと、御礼申し上げます。結果につきましては同封の集計票をご覧ください。



## 第二三回青僧協温泉説法

去る、二月二七日(月)から一泊二日で十勝川温泉ホテル大平原にて北海道教区青年僧侶協議会(横湯誓之会長)主催の第二三回温泉説法が行われました。今年も開催組である十勝組(白木幸久組長)の協力により、東北教区宮城組専能寺より足利一之住職をはじめ二二名の方々を招待して行われました。開会式では被災地の映像が流され、教務所長による追悼の言葉が述べられました。法要後、朗読「希望の灯」が行われ、現地取材を行っていた記者の記事や被災された詩人の方の著書などを現地の映像と共に朗読。朗読者、参加者全員が想像を超える震災、その中で頑張る人々を思い、涙、涙の朗読でした。

午後六時半からの懇親会では、北海道と東北の食材を使った料理が振る舞われました。また、舞台では「あなたと私の歌謡ショー」と題して青僧協の方々が参加者も歌って踊れる歌謡曲を披露され会場は爆笑の渦につつまれました。翌日はお晨朝後、笑福亭松喬師匠による落語が二席ありました。二席目の落語では「お文さん」と

言う題目で、途中で白骨章の一文が出てくるものでした。

その後、専能寺のご住職による御法話を頂きました。「本当は思いついたくはないが」と前置きをしつつ、震災の被害などについても語られ、「そのなかでも得られた北海道教区とのお縁」という言葉も頂きました。

大いに笑い、大いに泣いた温泉説法。改めて「三・一一」を忘れてはいけないと参加者の全員で大震災への思いを共有した繋がった一泊二日でした。



盛り上がった「歌謡ショー」(上)

御法話をされる専能寺住職(下)



## 「脱原発」の宗派声明を

## 求める建議提出

2011(平成23)年度北海道教区基幹運動推進委員会の取り組みとして、1月24日付中央基幹運動推進委員会宛に『「脱原発」の宗派声明を求める建議』を提出いたしました。

本建議につきましては、2月17日開催の「2011(平成23)年度中央基幹運動推進委員会」に提出され、その決定を受けて、基幹運動推進本部会議へ回付されました。

建議はただ出しっぱなしというものではありません。宗達「建議等の取り扱いに関する条例」に、「教区推進委員会の推進事項に関すること」と明記されております通り、教区の推進されている事項、推進される現場の声を集約し、提出されるべきものであります。ですから建議を提出するということは、宗派へ現場の声を、また同時に教区の活動をより推進する「宣言」の意味でもあるのです。

建議本文は下記に掲載しておりますので、ご一読され、今後「脱原発」に向けたさらなる取り組みをいただきますよう、お願いいたします。

## 「脱原発」の宗派声明を求める建議

「3月11日の東日本大震災から、すでに一年近くがたとうとしています。一万数千人の方が亡くなられ、いまだに四千人以上の方が行方不明になっているこの大惨事を、私たちは時間の経過とともに、頭の片隅に追いやろうとしてはいないでしょうか。しかし、この震災で家族を、親族を、友人を、愛する人を失った方々の悲しみが消えることは決してありません。被災地では少しずつ「復興」への歩みもはじまっていますが、失われたもののあまりの大きさに、立ち上がれずにいる方が数多くいらっしゃることを忘れてはなりません。

この惨事を一層絶望的なものにしたのは、いうまでもなく福島第一原子力発電所の事故でした。地震と津波により全電源を喪失した原発はメルトダウンを引き起こし、原子炉建屋内に充満した水素ガスの爆発とともに、大量の放射性物質を空高く舞い上げました。風に運ばれながら拡散したそれらは福島県内を中心に下降し、大地を、川を、海を、作物を、生き物を、汚染しました。

色も無く、匂いも無い放射性物質は、体内に入り込んで染色体を傷つけ、ガンや白血病を引き起こす危険値は上昇すると言われている。

ます。放射能の见えない恐怖は、原発のある地域はもとより、遠く離れた飯館村にも「全村避難」となり、苦渋の決断を強いることになりました。また、放射能の影響を受けやすいといわれる子どもたちは屋内での生活を強いられ、屋外で遊ぶのにもマスクを着用しなければなりません。子どもを抱える親たちは、県外への避難を望みながら、地域との軋轢に苦しんでいます。そもそも、原発がなければ、このような悲劇は起こらずにすんだのです。

原発は、「核の平和利用」の名の下、多くの政治家・官僚・財界人・学者・マスコミが一体となつて建設がすすめられました。激しい反対運動は札束と権力によって潰され、地域は分断されていきました。第一次産業は衰退し、あとに残されたのは原発に依存しなければ成り立たない、一見豊かに見えながら、その実やせ衰えた地域でした。

人々の心を引き裂き、いのちを蝕む原発。いまだに放射性廃棄物というゴミの始末もつけられない、「トイレなきマンション」原発。電力を過剰に消費することで成り立つ私達の豊かな生活は、このようになものに依存してきたのです。私達の無自覚さが、今回の福島の

悲劇につながっているのです。私達は被災された人々に謝らねばなりません。

3・11によって長く記憶されるであろう2011年は、宗門にとつて親鸞聖人750回大遠忌を迎えた記念すべき年でもありました。すべてのいのちを輝かすお念仏のみ教えを伝えてくださった親鸞聖人のお徳を讃仰するこの法要の中で、大谷光真ご門主は震災でのいのちを失った人々を悼みながら、福島第一原発の事故に触れ、「原子力は人間の知恵や能力で扱うことのできるものかどうかを問いかけています。後の世代に犠牲を強いて今の経済的豊かさを優先する生き方は仏教から見ても大きな問題です。」(中外日報9月13日号より抜粋)と述べられました。ご門主が指摘された通り、原発はいのちよりも経済的豊かさを優先してきた私達の生き方の象徴でもあるのです。

あまりにも拙速な首相の事故終息宣言もまた、経済的豊かさを大事にする姿です。私達はそのような生き方に決別し、いのちを大切に生きる生き方を選びます。そして未来を生きる子孫のために、日本国内全ての原発の即時停止と廃炉を求めます。以上のことを「御同朋の社会」をめざす教団・宗派として声明してくださるよう、切にお願い申し上げます。

以上

▼北海日誌

【報告】

2月

- 9日 第一連区青年布教使研修会 (仙台別院)
- 13日 キッズサンガアドバイザー協議会 (本山)
- 17日 キッズサンガアドバイザー・サポーター研修会
- 18日 仏青役員会・仏壮連盟中央研修会 (本山)
- 20日 第1連区専従員研修会 (~21日 長野)
- 22日 連研履修者研修会 (~23日 北見東組)
- 23日 保育連盟理事会
- 24日 連研履修者研修会 (札幌組)
- 27日 温泉説法の集い (~28日 十勝川温泉)

3月

- 1日 社会問題委員会
- 5日 基推常任委員会・勤式運営委員会
- 6日 第4回常備会
- 8日 ビハーラ理事会・矯正管区理事会・本山坊守式
- 9日 少年連盟三役会
- 10日 仏青中央研修会 (本山)
- 11日 東日本大震災1周年法要 (本山)
- 13日 布教団連合常任委員会・総会 (本山)
- 14日 布教団役員会・研修委員会
- 15日 寺婦役員会・仏婦役員会
- 16日 宗会三百回記念行事
- 19日 宗教者懇談会
- 21日 仏壮理事会・総代会常任幹事会
- 22日 教団連合理事会
- 23日 基推常任委員会北海道教区基推全体会

- 26日 少年連盟リーダー研修会 (~28日)
- 28日 第5回常備会・定期教区会
- 29日 スカウト仏教章研修会 (~31日)
- 30日 組長会

【予定】

4月

- 14日 仏青連盟役員会・総会・研修会
- 19日 仏婦総連盟総会
- 24日 保育連盟総会・北海道真宗派集団連合理事・評議員会
- 25日 仏婦常任委員会
- 26日 少年連盟総会
- 27日 教区会・組長会・研修会
- 30日 仏壮総会・研修会

5月

- 29日 ビハーラ評議員会・仏婦総会研修会 (~30日)
- 31日 布教使研修会 (~1日)

6月

- 1日 政教分離を守る北海道研修会 (~2日 旭川)
- 19日 少年連盟第1ブロック研修会評議会 (~20日)
- 30日 全道仏壮大会 (~1日 釧路)

7月

- 2日 ビハーラ講座 (釧路)
- 4日 浄青僧全国大会 (~5日)
- 10日 Aブロック総代研修会

9月

- 6日 第1ブロックビハーラ研修会 (国府・新潟)

11月

- 11日 帯広別院大遠忌法要

北海道教区常例布教日程 (予定)

札幌別院	別院	北見西	北見東	釧根	十勝II	十勝I	日高	胆振	上川北	上川南3	上川南2	上川南1	空知北	空知南	後志	函館	札幌II	札幌I	
吉村隆真 (熊本教区・詫麻組・良寛寺)	田阪法雄 (安芸教区・浦組・妙尊寺)	打本厚史 (北海道教区・上川南組・専証寺)	小原静也 (山陰教区・三郡組・妙蓮寺)	皆川隆信 (北海道教区内)	佐々木光明 (北海道教区・空知北組・白濁寺)	金龍之哉 (北海道教区・空知北組・白濁寺)	吉川昭恵 (北海道教区・留萌組・信楽寺)	足利礼子 (四州教区・宇和島組・圓立寺)	天野廣海 (北海道教区・空知南組・誓願寺)	吉川恭 (山陰教区・十須賀組・永照寺)	波多唯明 (佐賀教区・松浦組・源光寺)	石田智秀 (北海道教区・十勝組・誓願寺)	頓宮彰玄 (北海道教区・十勝組・誓願寺)	寺添和南 (熊本教区・玉関組・正元寺)	夏木一丸 (滋賀教区・長浜組・浄願寺)	三浦幸生 (鹿児島教区・川内組・安国寺)	芳滝智仁 (北海道教区・十勝組・顯勝寺)	増山孝琢 (高岡教区・新湊組・妙蓮寺)	
吉田俊宣 (福井教区・若狭組・西光寺)	打本厚史 (北海道教区・古南組・専証寺)	芳滝智仁 (北海道教区・十勝組・顯勝寺)	田原哲 (東京教区・北組・慈光寺)	吉川昭恵 (北海道教区・留萌組・信楽寺)		舟川智也 (北豊教区・京仲組・西徳寺)		八村弘隆 (北海道教区・釧路組・西光寺)			金龍之哉 (北海道教区・空知北組・白濁寺)			植松泰尚 (鹿児島教区・出水組・大昭寺)	石田智秀 (北海道教区・十勝組・妙尊寺)	源明龍 (熊本教区・種山組・光澤寺)	頓宮彰玄 (北海道教区・十勝組・誓願寺)	増田廣樹 (東京教区・茨木東組・清心寺)	
本多龍典 (兵庫教区・出石組・乘専寺)	森哲人 (福岡教区・早良組・西教寺)	(組内)	三浦幸生 (鹿児島教区・川内組・安国寺)	三栗得生 (北海道教区・空知北組・光明寺)		藤島秀恵 (富山教区・婦島西組・勝福寺)		植松泰尚 (鹿児島教区・出水組・大昭寺)			八村弘隆 (北海道教区・釧路組・西光寺)		佐々木俊丸 (北海道教区・後志組・照寛寺)	源明龍 (熊本教区・種山組・光澤寺)	徳川真英 (山陰教区・太田組・浄土寺)	九條孝義 (滋賀教区・甲賀組・報恩寺)	西脇昌史 (東海教区・海幡組・普元寺)	宮部雅文 (大阪教区・島中組・誓寛寺)	

※変更になる可能性があります。